

平成 30 年度 学力向上プラン全体計画

新見市立新見第一中学校

【中期目標】「思考力・判断力・表現力等」の育成を目指す。

【中期指標】「まなびノート」(自主学習)を中心とした家庭学習が、「思考力・判断力・表現力等」(「学びに向かう力・人間性等」)の育成につながるように、授業と関連させた課題を各教科担当で示し、生徒の実践を促す。

【短期目標】「知識・技能」の確実な定着のため、家庭学習に取り組むことができる生徒の育成を目指す。

【短期指標】平日家庭学習に1時間以上(1年生 80 分、2 年生 90 分、3 年生 100 分)取り組む生徒を 70%以上に増やす。

【家庭との連携】

・平日に家庭学習に取り組む生徒の割合の 100%達成に向けて、家庭学習強化週間(学期に 1 回、5 月、10 月、1 月)を実施する。その際、学校・学級通信や懇談、家庭連絡等を通じて、家庭との連携を密にする。

【取組指標】

★学校の授業以外、平日に勉強に全く取組まない生徒の割合 → 0 % (H29、3.9%)

【授業づくり】

- 「思考力・判断力・表現力等」を育成する授業づくりを行う。
- 「めあて」と「まとめ」につながりをもたせる。

【重点取組】「まなびノート」と授業の関連付け

- ・授業のまとめや予習など、授業と関連付けた「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の育成につながる学習課題を「まなびノート」で家庭学習させる。
- ・「まなびノート」で学習した内容から授業のめあてを設定したり、「まなびノート」を学習の評価対象にしたりする。

【取組指標】

- ★「まなびノート」の学習内容についての全教員への周知の徹底
- ★授業における「めあて」と「まとめ」の提示の徹底

【教員の指導力の向上】

・資質・能力の三つの柱に関する校内研修を行う。

【重点取組】

「思考力・判断力・表現力等」の育成に関する研修・実践。

【取組指標】

★「校内研修アンケート」における研修満足度 → 80%以上

【学力基盤づくり】

- 「知識・技能」を育成するため、国語・数学・英語の課題を毎日出し、家庭学習の習慣を確立させる。
- 家庭学習の意識の向上に向けて、学期に 1 回(5・10・1 月)「家庭学習教科週間」を設け、オリエンテーションや声掛け、クラスマッチ、ノートコンテスト等で家庭学習の啓発活動を行う。

【取組指標】

- ★国語・数学・英語の課題の提出率 → 90%
- ★「家庭学習強化週間」の啓発活動の完全実施

《生徒の学力の課題及び要因の考察》

<学力の課題>・H29 年度全国学力調査において、国語では文章の内容や語句の意味を適切に理解すること、相手に分かりやすいように言葉や資料を選んで話すことに課題がみられた。数学では主として知識に関する問題において全国と正答率に差がみられ、生きて働く「知識・技能」の定着が求められる。(本校 61.0%、岡山県 64.0%、全国 64.6%)

・H 2 9 年度学習状況調査において、平日家庭学習に 1 時間以上取り組む生徒の割合が全国平均・岡山県平均を大幅に下回っている。(本校 49.3%、岡山県 59.2%、全国 69.6%)

・学校評価においても生徒、保護者、教員の全てで「家庭学習」の項目が低い。家庭学習の確立が課題である。

<要因>・「知識・技能」の習得や、「思考力・判断力・表現力等」の育成を促す学習活動や家庭学習の検討が必要である。

・家庭学習の課題の提示の仕方(学習内容)が生徒の実態に即していない部分がある。

平成 30 年度 学力向上プラン全体計画

新見市立新見第一中学校

【中期目標】「思考力・判断力・表現力等」の育成を目指す。

【中期指標】「まなびノート」(自主学习)を中心とした家庭学習が、「思考力・判断力・表現力等」(「学びに向かう力・人間性等」)の育成につながるように、授業と関連させた課題を各教科担当で示し、生徒の実践を促す。

【短期目標】「知識・技能」の確実な定着のため、家庭学習に取り組むことができる生徒の育成を目指す。

【短期指標】平日家庭学習に1時間以上(1年生 80 分、2 年生 90 分、3 年生 100 分)取り組む生徒を 70%以上に増やす。

【家庭との連携】

・平日に家庭学習に取り組む生徒の割合の 100%達成に向けて、家庭学習強化週間(学期に 1 回、5 月、10 月、1 月)を実施する。その際、学校・学級通信や懇談、家庭連絡等を通じて、家庭との連携を密にする。

【取組指標】

★学校の授業以外、平日に勉強に全く取組まない生徒の割合 → 0 % (H29、3.9%)

【授業づくり】

- 「思考力・判断力・表現力等」を育成する授業づくりを行う。
- 「めあて」と「まとめ」につながりをもたせる。

【重点取組】「まなびノート」と授業の関連付け

- ・授業のまとめや予習など、授業と関連付けた「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の育成につながる学習課題を「まなびノート」で家庭学習させる。
- ・「まなびノート」で学習した内容から授業のめあてを設定したり、「まなびノート」を学習の評価対象にしたりする。

【取組指標】

- ★「まなびノート」の学習内容についての全教員への周知の徹底
- ★授業における「めあて」と「まとめ」の提示の徹底

【教員の指導力の向上】

・資質・能力の三つの柱に関する校内研修を行う。

【重点取組】

「思考力・判断力・表現力等」の育成に関する研修・実践。

【取組指標】

★「校内研修アンケート」における研修満足度 → 80%以上

【学力基盤づくり】

- 「知識・技能」を育成するため、国語・数学・英語の課題を毎日出し、家庭学習の習慣を確立させる。
- 家庭学習の意識の向上に向けて、学期に 1 回(5・10・1 月)「家庭学習教科週間」を設け、オリエンテーションや声掛け、クラスマッチ、ノートコンテスト等で家庭学習の啓発活動を行う。

【取組指標】

- ★国語・数学・英語の課題の提出率 → 90%
- ★「家庭学習強化週間」の啓発活動の完全実施

《生徒の学力の課題及び要因の考察》

- <学力の課題>・H29 年度全国学力調査において、国語では文章の内容や語句の意味を適切に理解すること、相手に分かりやすいように言葉や資料を選んで話すことに課題がみられた。数学では主として知識に関する問題において全国と正答率に差がみられ、生きて働く「知識・技能」の定着が求められる。(本校 61.0%、岡山県 64.0%、全国 64.6%)
- ・H 2 9 年度学習状況調査において、平日家庭学習に 1 時間以上取り組む生徒の割合が全国平均・岡山県平均を大幅に下回っている。(本校 49.3%、岡山県 59.2%、全国 69.6%)
- ・学校評価においても生徒、保護者、教員の全てで「家庭学習」の項目が低い。家庭学習の確立が課題である。
- <要因>・「知識・技能」の習得や、「思考力・判断力・表現力等」の育成を促す学習活動や家庭学習の検討が必要である。
- ・家庭学習の課題の提示の仕方(学習内容)が生徒の実態に即していない部分がある。